

平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業  
「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」

## インターンシップ・PBL グランプリ 2013

### 募集要項

主催：和歌山大学・大阪府立大学・兵庫県立大学・追手門学院大学・大阪音楽大学・大阪工業大学・大阪成蹊大学・関西  
外国語大学・摂南大学・帝塚山学院大学・芦屋大学・追手前大学・神戸学院大学・大阪音楽大学短期大学部

# 目次

## 1. 背景と目的

## 2. グランプリ概要

### (1) 開催概要

### (2) 参加資格／応募要件

### (3) 発表の構成と提出物について

### (4) 審査基準

## 3. 参加申し込みについて

## 1. 背景と目的

本グランプリは文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」へ参加する兵庫、大阪、和歌山の大学グループによって企画されている。

本事業は、学生の社会的・職業的自立に向けた取組実績のある大阪、兵庫、和歌山の14大学グループと地域の経済団体、企業、自治体や国等が産学協働で、産業界等のニーズに対応した人材育成教育の改善・充実及び、それらを継続して支援できる人材育成体制整備を行うことを目的としている。各大学の取組を実践基盤として、①大学と産業界等が連携した「産官学地域協働連携会議」、②4つの取組テーマによる4委員会、③合同フォーラム、の3つのアプローチを通して、産業界等のニーズに対応した人材育成の在り方と具体化について産学協働で検討・検証・評価し、その結果を各大学の特色を活かした幅広い職業人養成強化に反映させ、継続的な産学協働による人材育成支援体制構築をめざすものである。

中でもテーマ III 領域・規模別産業界ニーズを踏まえた教育手法・手段の開発委員会は、インターンシップと PBL に焦点をあて、この2つの教育方法・手段の発展と改善に取り組んでいる。本委員会の取組の一つとして今年度インターンシップ・PBL グランプリを開催する。

本グランプリは、教員の取組についてのレポートと、学生の発表、審査員との質疑応答によって審査される。さらに学生が運営を行うことで、それ自体が PBL になっている。

本グランプリの目的は以下の通りである。

- ① 14大学のインターンシップ・PBLを互いに紹介し、各大学が他大学の取組を応用できるようにする。
- ② グランプリでの審査員や参加者の評価やフィードバックを通し、各大学のプログラムを改善、発展させられるようにする。
- ③ グランプリの運営（PBL）を通し、学生が成長する場を作る。
- ④ 本グランプリで学生が発表を行い、発表を通して学生が成長する場を作る。
- ⑤ 本グランプリを14大学が共同で行うことによって、事業全体の連帯感を生み出す。
- ⑥ 本グランプリで紹介、評価された取組を参考に、テーマ III 委員会の別の取り組みである合同プログラムのモデル作りをする。

以上、目的は重要度の高いものから書かれている。本事業の目的が、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備」であるため、各大学の取組の応用や、各大学のプログラムを改善、発展させることが最重要の目的となっている。

## 2. グランプリ概要

### (1) 開催概要

日時： 2014年3月10日（月） 合同フォーラム内でのイベント

会場： 追手門学院大阪城スクエア

### (2) 参加資格／応募要件

① 平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業  
「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」に参加する以下の大学に所属する教員と学生。

和歌山大学、大阪府立大学、兵庫県立大学、追手門学院大学、大阪音楽大学、大阪工業大学、大阪成蹊大学、関西外国語大学、摂南大学、帝塚山学院大学、芦屋大学、大手前大学、神戸学院大学、大阪音楽大学短期大学部

② 自校のインターンシップ（IS）制度もしくは産業界等と何らかの形で連携した PBL (Project-based Learning / Problem-based Learning) に取り組む教員とその制度や授業に参加した学生。（PBL に関しては PBL と名前がついた授業でなくても、その要素が入っているゼミなどの授業でも発表可能）

③ 2012年度もしくは2013年度に実施されたものに限る。

④ 1大学1組に限る。

### (3) 提出物、発表内容及び発表時間

#### 【事前提出物】

① IS・PBLに関わった教員が取り組みの概要についてレポートを書き提出。（3ページ以内）

（レポートの内容）

- a) 取組の位置づけ（学校・学部・個人などで実施、大学や学部のカリキュラムの中でその授業やインターンシップがどのような位置づけか）と達成目標（育成したい人物像）。
- b) 達成に向けて教員としてどのようなアクションを取ったか。
- c) 産業界等とどう連携したか。
- d) 学生達をどのように評価しているか。その評価となる根拠は何か。
- e) 今後どういったことを改善していきたいか。

※イメージとしては下記の図の3種類の取り組みのどれかにおいて、AとBの両方を説明したレポートを求めています。タイプ2に関してはAとBが重なります。

### 【当日発表】

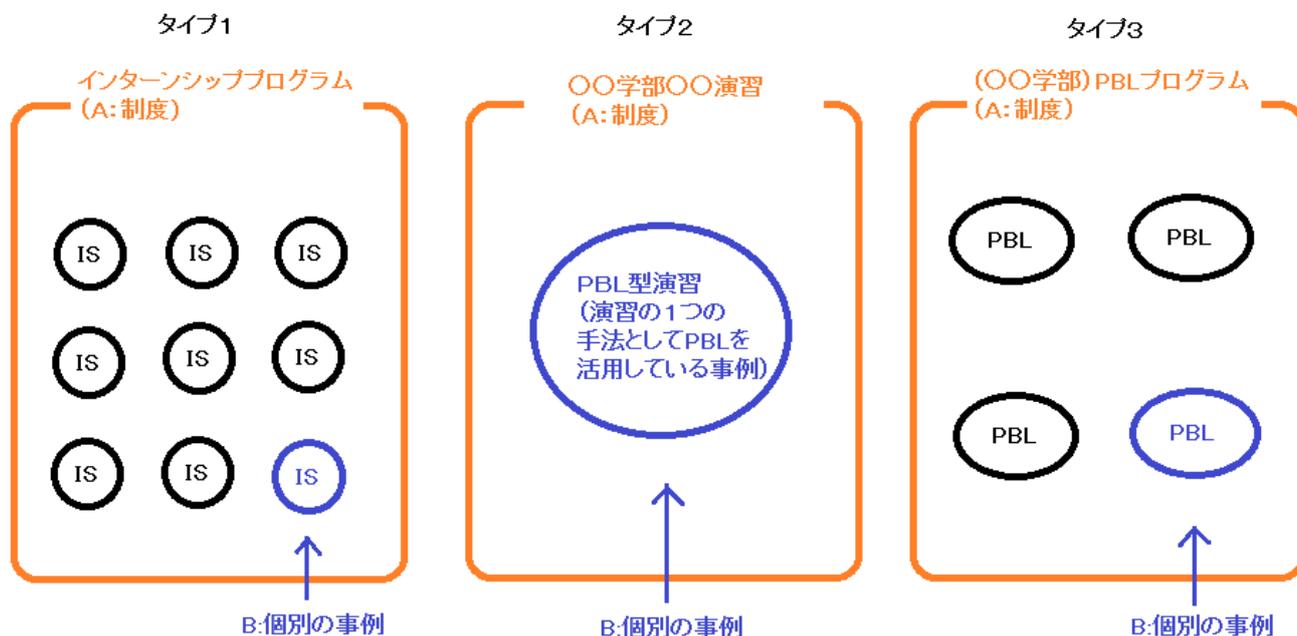
#### ① 学生の発表（3名以内） 7分

（発表の内容）

- a) テーマ設定（なぜそのテーマに取り組んだのか）
- b) 目標設定（自分たちの目標は何か、どんなことを達成したいのか）
- c) 目標達成に向けた他のチームメンバー（PBL）／他のインターン生（IS）や社員との連携
- d) 活動（どのような活動に取り組んだのか）
- e) 課題（活動を進めていく中でどのような課題に直面したか、どのような課題をどのように発見したのか）
- f) 課題解決（課題に対してどのように考えて行動したのか）
- g) 結果・評価（どのような成果を上げ、その過程でどのようなことを学んだのか）

※ g)は発表時の段階で構いません。

※イメージとしては下記の図表の3種類の取り組みのどれかにおいて、Bについての発表を求めています。



#### ② 審査委員との質疑応答 2分

#### (4) 審査基準について

各審査委員は教員の提出物と学生の発表と質疑応答をもとに、以下の3項目について採点し、原則として合計点で総合評価を実施します。

- ① 学生がどれだけ成長したか
- ② 取り組みの目標と位置づけが明確であり、持続性があるか
- ③ 産業界等との連携がどの程度できているか

※発表時間を超えると減点対象になります。

### 3. 参加申込について

#### (1) エントリー（学内での選考の後、各大学のGP担当者が申込みいただくようお願いいたします）

締切： 2013年10月31日（木）まで

応募先： 産業界ニーズGP事務局 担当：難波、大木 [sneeds@w-works.jp](mailto:sneeds@w-works.jp)

応募の際の伝達事項： 大学名、担当教員、IS・PBLどちらの発表か、発表するIS・PBLの名前もしくはテーマ

#### (2) レポート提出

締切： 2014年2月14日（金）まで

レポート送付先： 産業界ニーズGP事務局 担当：難波、大木 [sneeds@w-works.jp](mailto:sneeds@w-works.jp)